

児童期のマーチングバンド活動における 教育的効果及び普及に関する研究

初等教育コース 3615004 津田 啓樹

I. 目的

マーチングバンド活動は音楽と体育の要素が取り込まれ、それぞれの教育的効果が期待される。一方で、運動面に関する専門的研究が少ないことから、傷害が発生し、継続が阻害されている可能性が考えられる。そこで本研究では、児童期のマーチングバンド活動における教育的効果及び継続・普及について検討することを目的とした。

II. 結果

1. 児童の社会性の獲得について、質問紙法によるアンケート調査を行った。協調性及び規律性に関する項目において高値を示した。このことから、マーチングバンド活動は社会性向上に効果的な競技であることが推察された。
2. 体力の向上について、マーチングにおける各条件下の歩行を行い、心拍数及びRPEを測定した。歩行方法の変化及び楽器保持において、運動強度が高くなることが明らかになった。このことから、マーチングバンド活動は、体力向上に効果的な競技であることが示唆された。
3. マーチングバンド活動における児童の意識について、質問紙法によるアンケート調査を行った。技術の向上・好意・練習に関する項目において高値を示した。また、健康に関する項目において、経験年数が増加するにつれて高値を示す傾向にあった。このことから、児童はマーチングバンド活動を意欲的に行っており、体力向上を実感していることが示された。
4. マーチングバンド活動における傷害の実態について、質問紙法によるアンケート調査を行った。9割の児童が傷害経験有りと答えた。楽器別では、重量の大きい楽器に傷害件数が多い傾向にあり、部位別では肩甲帯部、腕部に傷害が多い傾向がみられた。これらのことから、マーチングバンド活動に取り組む児童は、傷害発生割合が高いことが明らかになった。
5. 楽器保持による姿勢への影響について、重心動揺測定及び姿勢解析を行った。楽器保持中の児童の重心動揺は大きく、姿勢は後傾する傾向にあった。これらのことから、小学生は楽器保持による身体への負荷が強く、無理な姿勢を保持している可能性が推察された。
6. 日常姿勢への影響について、姿勢解析を行い、マーチング経験者と未経験との比較を行った。経験者は姿勢が前傾していること、未経験者は円背した姿勢になる傾向にあることが明らかになった。これらのことから、マーチングバンド活動は日常姿勢の悪化を防止する効果がある可能性が示唆された。

III. 総括

マーチングバンド活動は社会性獲得や体力向上などの教育的効果が高く、意欲的に取り組まれている傾向にあることが明らかになった。一方で、傷害の発生率の高さや楽器保持による姿勢への悪影響など、継続を妨げる要因も明らかになった。